

エコアクション21

# 環境経営レポート2024

【対象期間：2024年1月～12月】

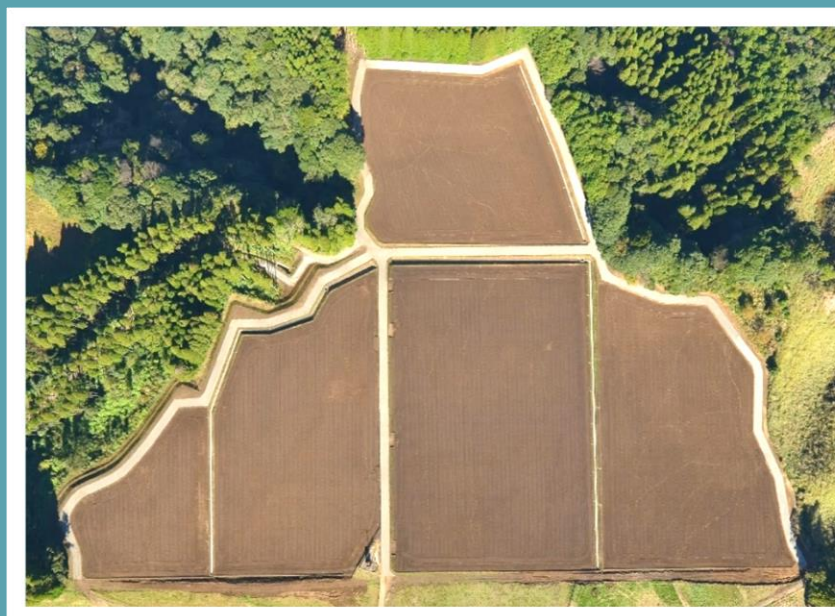


photo spot：宮崎県えびの市 【R5度 畑地整備 大河平3-1区 竣工 航空写真】

 原工業 株式会社

発行：2025年4月1日

## 目次

1	組織の概要	3 P
2	対象範囲	3 P
3	基本理念、環境経営方針	4 P
4	環境経営目標	5 P
5	環境経営計画	6 P
6	環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組結果・その評価	7・8 P
7	実施した取組内容の事例	9 P
8	活動組織図	9 P
9	実績グラフ	10 P
10	次年度の環境経営目標	11 P
11	次年度の環境経営計画	12 P
12	環境関連法規等の確認及び遵守評価結果、並びに違反、訴訟の有無	13 P
13	代表者による全体の評価と見直し・指示	13 P

## 1. 組織の概要



- 事業者名 原工業 株式会社
- 代表者名 代表取締役 原 裕一
- 所在地 本社  
〒889-4151 宮崎県えびの市大字向江296番地4  
  
倉庫  
〒889-4161 宮崎県えびの市大字岡松
- 環境管理責任者 永山めぐみ
- 連絡先・担当者 永山めぐみ TEL 0984-37-2201  
FAX 0984-37-2900  
✉ harakougyou.kabu@sweet.ocn.ne.jp
- 事業概要 1969年創業  
建設業  
< 宮崎県知事許可（特-3）第2444号 >  
(
  - ・土木一式工事
  - ・石工事
  - ・舗装工事
  - ・水道施設工事
  - ・とび・土工・コンクリート工事
  - ・鋼構造物工事
  - ・しゅんせつ工事
  - ・解体工事)



### ● 事業規模

項目	2022年	2023年	2024年
売上高 (百万円)	450	378	358
工事件数 (件)	7	8	7
従業員数 (人)	10	10	10
床面積 (m <sup>2</sup> )	130	130	130
資材倉庫 (m <sup>2</sup> )	450	450	450

## 2. 対象範囲



- 認証登録範囲 対象組織 ・本社 宮崎県えびの市大字向江296番地4  
・倉庫 宮崎県えびの市大字岡松  
  
対象活動 建設業  
(土木一式工事、とび・土工・コンクリート工事、しゅんせつ工事)
- 対象期間 2024年 1月 ～ 2024年 12月
- 環境経営レポート発行日 2025年 4月 1日
- 次回環境経営レポート発行日 2026年 4月頃



#### 【 基本理念 】

原工業株式会社は、「人と自然が共生する環境保全型社会づくり」を基本理念とし、豊かな自然環境、美しい景観を守り、人類共通の財産として後世に引き継ぐ為に、事業活動から生ずる環境への様々な影響を低減する事が社会的責任の一つと認識し、建設業を営んでいる事を踏まえ、循環型社会とリサイクルの推進に努め、「環境にやさしい企業」の実現に向け社員一人ひとりが連携し、環境問題に積極的に取り組んでまいります。

#### 【 環境経営方針 】

- 1) 人材確保に向け、若手社員の育成、キャリアアップを図ります。
- 2) 二酸化炭素排出量の削減に向け、省エネ及び排出ガスの抑制に努めます。
- 3) 一般及び産業廃棄物の低減、再利用、再生使用に努めます。
- 4) 資源有効活用の為、廃棄物分別の徹底・リサイクルの推進・適正処理に努めます。
- 5) 適正な水使用に努め、使用量の低減に努めます。
- 6) 当社の事業に関する法規制・地域条例を遵守します。
- 7) エコ商品を積極的に使用し、グリーン購入に努めます。
- 8) 基本理念に基づき、地域・社会貢献活動に努めます。
- 9) 建設現場では、環境に配慮した機械・工法等を提案するよう努めます。

以上の方針を、全社員へ周知徹底し、環境保全活動を実施し継続的な改善を行います。  
又、これらの活動を環境経営レポートとして一般に公開いたします。

2019年2月1日



原工業 株式会社  
代表取締役 原 裕一

## 4. 環境経営目標



2019年・2020年・2021年の3年間実績平均値を基準値とし、  
単年度及び中期目標の設定を下記のとおり行います。

- 単年度目標 各使用量ともに基準値の1%ずつ削減。  
CO2排出量・現場の電気使用量は増加見込みの為、改訂あり。
- 中期目標 2024年度までに基準値の3%削減。

取組・目標項目	単位	実施場所	基準値 3年平均	2022年度	2023年度	2024年度	
				1%削減	2%削減	3%削減	
1. 二酸化炭素排出量の削減	kg-CO2	全社	95,459	94,505	※98,004	※93,956	
		事務所	3,280	3,247	3,215	3,182	
		現場	92,179	91,257	※94,789	※90,774	
	電気使用量	kWh	全社	10,940	10,831	21,004	13,752
			事務所	5,208	5,156	5,104	5,052
			現場	5,732	5,675	※15,900	※8,700
	ガソリン使用量	L	全社	6,504	6,439	6,374	6,308
			事務所	385	381	377	373
			現場	6,119	6,058	5,997	5,935
	灯油使用量	L	全社	113	112	111	109
事務所			53	52	52	51	
現場			60	59	59	58	
軽油使用量	L	現場	29,206	28,914	28,622	28,330	
2. 廃棄物の削減	一般廃棄物	t	事務所	0.104	年/0.1 t 以下		
	建設副産物	t	現場	1,860.0	設計書とおりの廃棄を100%遵守		
3. 水使用料の削減	水資源総使用量	m <sup>3</sup>	全社	34	年/33m <sup>3</sup> 以下		
4. その他	グリーン購入促進	%	事務所	84%	エコ製品購入率 82%以上		
	環境保全取組推進	件	事務所	6	ボランティア活動 6件以上		
	社員の育成	件	事務所	4	スキルアップの充実		
	環境配慮型工法案	件	現場	5	5件以上		

※2023.4改訂

※2024.8改訂

- ・エコ製品購入率 = エコ製品購入数÷総購入数 で算出。
- ・受託収集運搬量は自社の元請工事排出分しか運搬しない為、目標設定なし。
- ・化学物質は使用・排出・移動も行っており、目標設定なし。
- ・LPGは事務所で僅かな使用の為、目標設定せず、数量の把握のみ。
- ・二酸化炭素排出量計算については下記の計算方法・排出係数を採用。

使用量	×	排出係数
ガソリン	(L)	2.32
軽油	(L)	2.58
灯油	(L)	2.49
電力	(kWh)	0.433

(九州電力 調整後排出係数 (2022.1.7 環境省公表))

## 5.環境経営計画



2024年度の環境計画は下記のとおりです。

事務所

担当責任者：総務部門長

取組項目		活動内容	スケジュール
1 出 二 量 酸 の 削 炭 減 素 排	電気使用量	不在箇所、不要箇所、昼休み時の消灯	年間
		パソコン、コピー機等の省電力設定	年間
		空調温度の管理徹底（夏季22℃・冬季28℃）	シーズン時
		サーキュレータ使用による空調温度管理	シーズン時
		空調機フィルターの定期的な清掃	3ヶ月毎
		残業時間の減少	年間
		クールビズ・ウォームビズの徹底	年間
	ガソリン使用量	エコドライブの徹底	年間
2 廃棄物の削減 (一般廃棄物)	灯油使用量	空調温度の管理徹底（夏季22℃・冬季28℃）	シーズン時
		裏紙使用・両面・収縮・集約の推進	年間
		再利用・リサイクル可能製品の優先購入	年間
3 水使用量の削減		リユース・リデュース・リサイクル促進	年間
		節水徹底（こまめな開閉）	年間
		雨水貯留タンク設置での雨水利用推進	年間
4 そ の 他	グリーン購入	環境ファベル認定商品、間伐材等の優先購入	年間
		社内文書のペーパレス化推進	年間
		機械、車両購入時は排出ガス対応等確認	年間
	環境保全取組の推進	事務所等周辺の地域清掃	開催都度
		環境に係る講習会への参加要請案内	開催都度
	若手社員の育成	資格取得等へ向けての研修会参加案内	年間
		同世代の研修会への参加案内	年間

現場

担当責任者：工事部門長

取組項目		活動内容	スケジュール
1 二 酸 化 炭 素 排 出 量 の 削 減	電気使用量	不在箇所、不要箇所、昼休み時の消灯	現場発生都度
		パソコン、コピー機等の省電力設定	現場発生都度
		空調温度の管理徹底（夏季22℃・冬季28℃）	現場発生都度
		残業時間の減少	現場発生都度
		人感センサー付照明の取付	現場発生都度
		エコドライブの徹底	年間
	ガソリン使用料	現場への相乗り推進	年間
		折り返し運行の撲滅	年間
		エネルギー消費の少ない運転操作	年間
		エネルギー消費の移動ルートの提案	年間
	灯油使用量	空調温度の管理徹底（夏季22℃・冬季28℃）	現場発生都度
	軽油使用量	空ぶかし禁止、過積載禁止の徹底	年間
アクセル7割運動の推進		年間	
協力会社へ使用量削減の徹底		現場発生都度	
重機・車両の始業前点検		年間	
2 廃棄物の削減 (建設副産物)		分別の徹底	年間
		設計書に記載された処分方法の厳守	現場発生都度
3 そ の 他	環境配慮型工法の提案	環境配慮型の建設機械の使用	現場発生都度
		電子黒板の活用	現場発生都度
		環境配慮型施工・工法の提案	現場発生都度
		現場及び事務所周辺の騒音・振動・粉じん対策	現場発生都度
		環境配慮型の設備導入（仮設トイレ他）	現場発生都度
		若手技術者の補佐	年間
	現場環境の整備	感染症対策の周知徹底、情報収集	年間
		アルコール検知器チェック義務化	年間

## 6. 環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組結果・その評価



2024年度の活動実績並びに結果等は下記のとおりです。

取組・目標項目	単位	実施場所	基準値 3年平均	目標	実績	達成率	評価	
				3%削減				
1.二酸化炭素排出量の削減	kg-CO <sub>2</sub>	全社	95,459	* 93,956	87,334	108%	◎	
		事務所	3,280	3,182	2,845	112%	◎	
		現場	92,179	* 90,774	84,489	107%	◎	
2.電気使用量 ガソリン使用量 灯油使用量 軽油使用量	kWh	全社	10,940	13,752	17,173	80%	△	
		事務所	5,208	5,052	5,829	87%	△	
		現場	5,732	* 8,700	11,344	77%	×	
	L	全社	6,504	6,308	6,353	99%	△	
		事務所	385	373	138	270%	◎	
		現場	6,119	5,935	6,215	95%	△	
	L	全社	113	109	0	100%	◎	
		事務所	53	51	0	100%	◎	
		現場	60	58	0	100%	◎	
	L	現場	29,206	28,330	25,255	112%	◎	
	2.廃棄物の削減	t	事務所	0.104	年/0.1t以下	0.090	111%	◎
		t	現場	1,860.0	設計書とおりの廃棄を100%遵守	設計書通りに廃棄しました。	100%	◎
3.水使用料の削減	m <sup>3</sup>	全社	34	年/33m <sup>3</sup> 以下	27	122%	◎	
4.その他	%	事務所	84%	エコ製品購入率82%以上	83%	105%	◎	
	件	事務所	6	ボランティア活動6件以上	6	100%	◎	
	件	事務所	4	スキルアップの充実	6	150%	◎	
	件	現場	5	5件以上	6	120%	◎	

評価方法 ◎100%以上 △80%以上 ×79%未満

\* 事務所のLPGを含めた二酸化炭素の総排出量は、87,379 kg-CO<sub>2</sub>です。

\* 2024.8月改訂

使用量	×	排出係数
ガソリン	(L)	2.32
軽油	(L)	2.58
灯油	(L)	2.49
電力	(kW)	0.433

(九州電力 調整後排出係数 (2023.1.24 環境省公表))

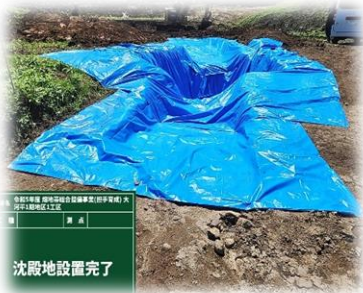
2024年度の評価及び次年度への活動については下記のとおりです。

取組項目	活動内容等の評価	次年度への活動
二酸化炭素排出量の削減	108%の目標達成となった。軽油・ガソリン使用量は、順調に削減できている。現場の電気使用量は、酷暑により大幅な増加が見込まれ目標改訂を行った。次年度も引き続き削減につなげたい。	継続
電気使用量	現場は増加が見込まれ、目標改訂を行ったが、目標未達成となった。エアコン台数を増やすなど暑さ対策を行った結果であるが、消し忘れ等もあった為、次年度は徹底して削減につなげたい。	継続
ガソリン使用量	目標達成となった。書類の受け渡し等をメールで行う等時間ロスをなくした。計画に基づき次年度も引き続き削減できるよう努める。	継続
灯油使用量	事務所、現場ともに年間を通して灯油の使用はなかった。また、冬期の夜間作業等もなかった。次年度も引き続き削減に努める。	継続
軽油使用量	軽油は当社の二酸化炭素排出量の大きな要因であるが、空ぶかしや急発進などないように注意しており、計画に基づいて活動できているようである。次年度も引き続き継続する。	継続
一般廃棄物	目標達成できた。分別の徹底を行い、廃棄回数も減ってきている。次年度も計画に基づき引き続き削減に努める。	継続
建設副産物	設計書の記載とおりの処分方法を厳守し、分別の徹底を行っている。マニフェスト状況報告書も行っており、次年度も引き続き厳守していく。	継続
水使用料の削減	削減できている。蛇口の開閉はこまめに行ったり、庭木の水やりは雨水で行っている。次年度も引き続き活動する。	継続
グリーン購入促進	エコ商品、グリーンマーク商品を優先的に購入している。次年度も引き続きグリーン購入に努める。	継続
環境保全取組推進	ボランティア活動に取組めた。次年度も引き続き取組む。	継続
社員の育成	若手・ベテラン社員にかぎらず、スキルアップの充実ができた。次年度も提案していき、より一層のレベルアップを図る。	継続
環境配慮型工法案	目標達成できた。次年度も引き続き提案していく。	継続

## 7. 実施した取組内容の事例



2024年に実施した活動の一部をご報告します。



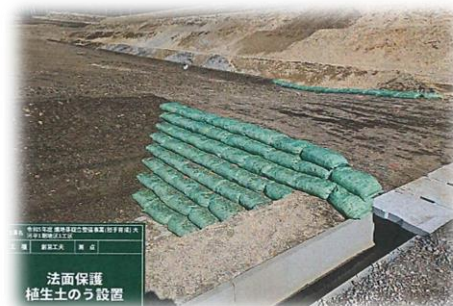
<創意工夫>  
降雨時 泥水流出対策（沈殿池設置）



<環境保全活動>  
ひなもり台県民ふれあいの森清掃活動

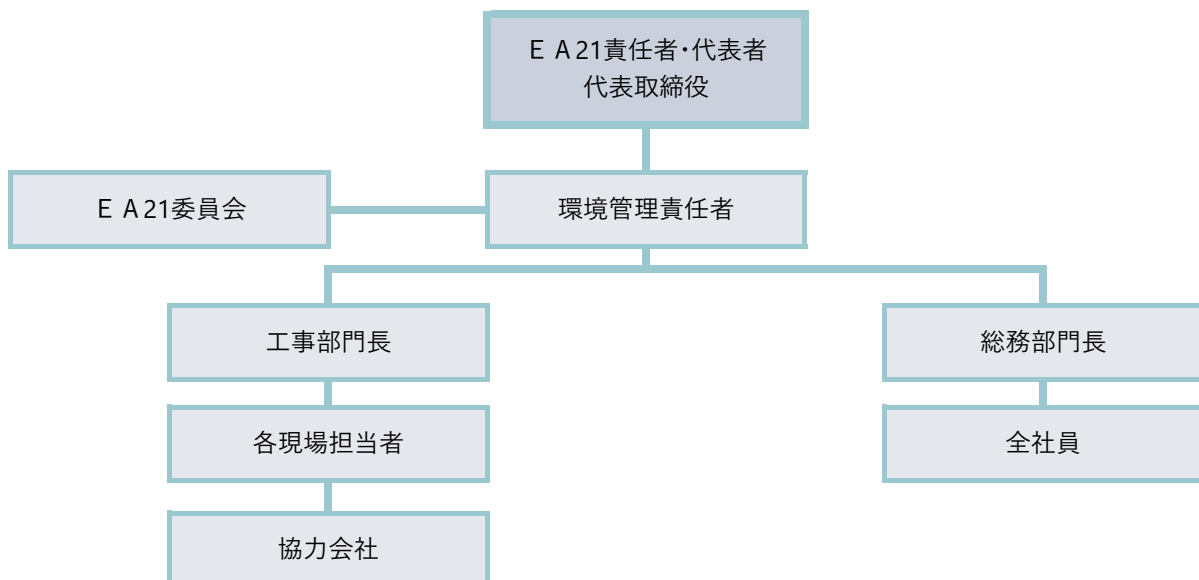


<消火訓練>  
協力会社合同訓練



構造物設置箇所、進入路の法面崩壊防止対策（土のう設置）

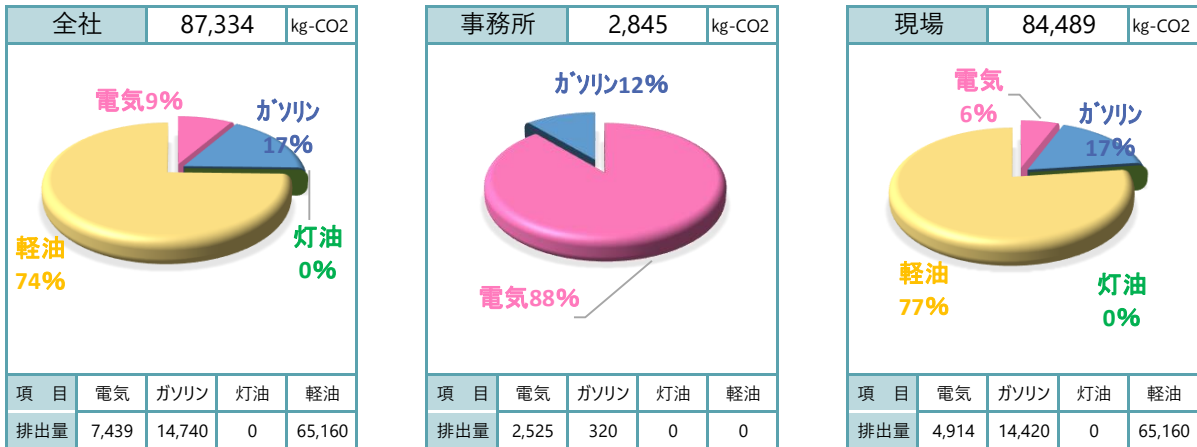
## 8. 活動組織図



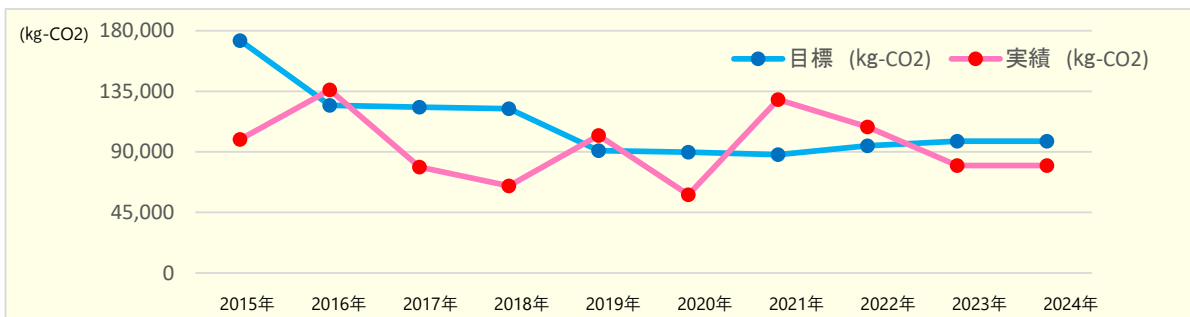
## 9. 実績グラフ



### ◆ 2024年度二酸化炭素排出量 項目別割合

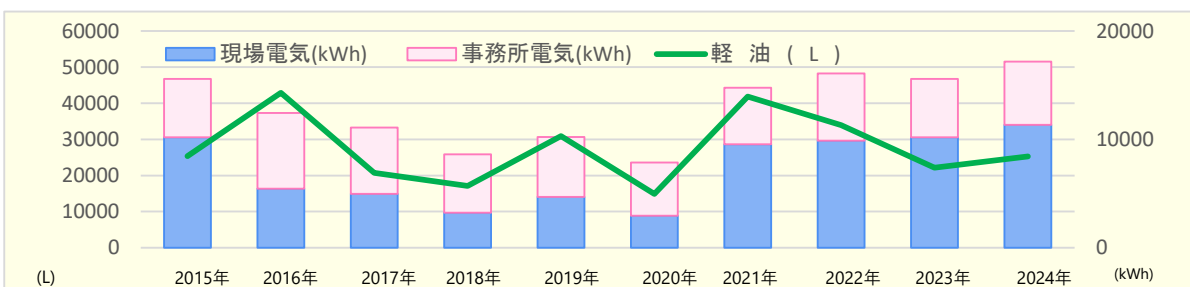


### ◆ 二酸化炭素排出量（全社）過去10年間推移



目標 (kg-CO2)	172,746	124,520	123,249	121,978	90,807	89,889	87,929	94,505	98,004	98,004
実績 (kg-CO2)	99,306	136,019	78,643	64,714	102,281	58,151	128,760	108,518	79,882	79,882
運用年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年

### ◆ 軽油使用量・電気使用量（全社）過去10年間推移



軽油 (L)	25,334	42,885	20,730	17,082	30,914	14,891	41,812	33,922	22,160	25,255
現場電気(kWh)	10,176	5,452	4,964	3,241	4,689	2,963	9,545	9,880	10,176	11,344
事務所電気(kWh)	5,412	6,993	6,136	5,378	5,528	4,890	5,205	6,190	5,412	5,829
運用年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年

## 10. 次年度の環境経営目標



2022年・2023年・2024年の3年間実績平均値を基準値とし、  
単年度及び中期目標の設定を下記のとおり行います。

- 単年度目標 CO<sub>2</sub>排出量、各使用量ともに基準値の1%削減。
- 中期目標 2027年度までに基準値の3%削減。

取組・目標項目		単位	実施場所	基準値 3年平均	2025年度	2026年度	2027年度	
					1%削減	2%削減	3%削減	
1.二酸化炭素排出量の削減		kg-CO <sub>2</sub>	全社	91,406	90,492	89,578	88,663	
			事務所	3,011	2,981	2,951	2,920	
			現場	88,395	87,511	86,627	85,743	
	電気使用量	k W h	全社	16,277	16,114	21,594	15,789	
			事務所	5,810	5,752	5,694	5,636	
			現場	10,467	10,362	15,900	10,153	
	ガソリン使用量	L	全社	6,090	6,029	5,968	5,907	
			事務所	291	288	285	282	
			現場	5,799	5,741	5,683	5,625	
	灯油使用量	L	現場	315	312	309	306	
	軽油使用量	L	現場	27,112	26,841	26,570	26,299	
	2.廃棄物の削減	一般廃棄物	t	事務所	0.088	年/0.1 t 以下		
		建設副産物	t	現場	1,310.0 <small>再資源化率94%</small>	再資源化率の向上93%		
3.水使用料の削減	水資源総使用量	m <sup>3</sup>	全社	24	年/30m <sup>3</sup> 以下			
4.その他	グリーン購入促進	%	事務所	84%	エコ製品購入率 年/82%以上			
	環境保全取組推進	件	事務所	6	ボランティア活動 年/6件以上			
	社員の育成	件	事務所	7	スキルアップの充実			
	環境配慮型工法案	件	現場	5	年/5件以上			

### ・二酸化炭素排出量計算

使用量	×	排出係数
ガソリン	(L)	2.32
軽油	(L)	2.58
灯油	(L)	2.49
※ 電力	(kWh)	0.402

- ・事務所の灯油は使用がないため、目標設定なし。
- ・受託収集運搬量は自社の元請工事排出分しか運搬しない為、目標設定なし。
- ・エコ製品購入率 = エコ製品購入数÷総購入数 で算出。
- ・化学物質は使用・排出・移動も行っておらず、目標設定なし。
- ・LPGは事務所での僅かな使用の為、目標設定せず、数量の把握のみ。

※ (九州電力 調整後排出係数 (2025.3.18 環境省公表))

## 11. 次年度の環境経営計画



2025年度の環境計画は下記のとおりです。

事務所		担当責任者：総務部門長	
取組項目	活動内容	スケジュール	
1 出 二 量 酸 の 削 炭 減 素 排	電気使用量	不在箇所、不要箇所、昼休み時の消灯	年間
		パソコン、コピー機等の省電力設定	年間
		空調温度の管理徹底（夏季22℃・冬季28℃）	シーズン時
		サーキュレータ使用による空調温度管理	シーズン時
		空調機フィルターの定期的な清掃	3ヶ月毎
		残業時間の減少	年間
	ガソリン使用量	クールビズ・ウォームビズの徹底	年間
エコドライブの徹底		年間	
	折り返し運行の撲滅	※	年間
2 廃棄物の削減 (一般廃棄物)	裏紙使用・両面・収縮・集約の推進	年間	
	再利用・リサイクル可能製品の優先購入	年間	
	リユース・リデュース・リサイクル促進	年間	
3 水使用量の削減	節水徹底（こまめな開閉）	年間	
	雨水貯留タンク設置での雨水利用推進	年間	
4 そ の 他	グリーン購入	環境マーク認定商品、間伐材等の優先購入	年間
		社内文書のペーパーレス化推進	年間
		機械、車両購入時は排出ガス対応等確認	年間
	環境保全取組の推進	事務所等周辺の地域清掃	開催都度
		環境に係る講習会への参加要請案内	開催都度
	若手社員の育成	資格取得等へ向けての研修会参加案内	年間
		同世代の研修会への参加案内	年間

現場		担当責任者：工事部門長		
取組項目	活動内容	スケジュール		
1 二 酸 化 炭 素 排 出 量	電気使用量	不在箇所、不要箇所、昼休み時の消灯	現場発生都度	
		パソコン、コピー機等の省電力設定	現場発生都度	
		空調温度の管理徹底（夏季22℃・冬季28℃）	現場発生都度	
		残業時間の減少	現場発生都度	
		人感センサー付監視カメラの取付	※	現場発生都度
	ガソリン使用料	エコドライブの徹底	年間	
		現場への相乗り推進	年間	
		折り返し運行の撲滅	年間	
		エネルギー消費の少ない運転操作	年間	
		エネルギー消費の移動ルートの提案	年間	
灯油使用量	空調温度の管理徹底（夏季22℃・冬季28℃）	現場発生都度		
軽油使用量	空ぶかし禁止、過積載禁止の徹底	年間		
	アクセル7割運動の推進	年間		
	協力会社へ使用量削減の徹底	現場発生都度		
	重機・車両の始業前点検	年間		
2 廃棄物の削減 (建設副産物)	分別の徹底、再資源化率93%以上	※	年間	
	設計書に記載された処分方法の厳守	現場発生都度		
3 そ の 他	環境配慮型工法の提案	環境配慮型の建設機械の使用	現場発生都度	
		徹底した工程管理のもと、工期短縮	※	現場発生都度
		環境配慮型施工・工法の提案	現場発生都度	
		現場及び事務所周辺の騒音・振動・粉じん対策	現場発生都度	
		環境配慮型の設備導入（仮設トイレ他）	現場発生都度	
	現場環境の整備	若手技術者の補佐	年間	
		熱中症対策の強化	※	シーズン時
	アルコール検知器チェック義務化	年間		

※ 追加及び見直し項目

## 12. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

- 環境管理責任者及び各部門長が遵守状況を年3回確認した結果、環境関連法規等の違反はありません。
- 関係当局からの指摘、利害関係者からの訴訟は過去3年間ありません。

法規名	該当する要求事項	評価
廃棄物処理法	委託契約の締結	順守
	マニフェストの交付、保管義務	順守
	産業廃棄物管理票交付等状況報告書	順守
	多量排出事業者 計画書、実施書	順守
	保管場所の掲示	順守
建設リサイクル法	発注者への書面による計画等説明、完了報告	順守
	必要事項を都道府県知事に届け出	順守
	分別解体、再資源化促進、再資源使用	順守
フロン排出抑制法	簡易点検の実施	順守

## 13. 代表者による全体の評価と見直し・指示



全体として目標達成できている。しかし、昨今の酷暑により、電気使用量が増加傾向にあるため、環境経営計画に基づき可能な範囲で活動していく。二酸化炭素排出量を圧倒的に占める軽油使用量は工事内容にもよるが目標達成できているので、引き続き活動していく。

当年度は、二酸化炭素排出量の削減目標は基準値の3%減であったが、8%近くの削減ができた。来年度は新たな中長期目標を設定し、継続的に活動する。

環境経営方針	変更なし	2019. 2. 1 改定
環境経営目標	変更あり	2024.8.18 改定
環境経営計画	変更あり	2024.2.25 計画
環境経営マニュアル	E A 21ガイドライン2017版に準拠する	

 HARAKOUGYOU  
SINCE 1969